

養豚農業の振興を めぐる現状について

令和6年9月
農林水産省畜産局

飼養戸数・頭数の推移

- ・ 飼養戸数は減少傾向で推移。
- ・ 一戸当たり飼養頭数及び子取用雌豚頭数は増加しており、大規模化が進展。

区 分 / 年	26	28	29	30	31	令和3	4	5	6
飼養戸数(戸)	5,270	4,830	4,670	4,470	4,320	3,850	3,590	3,370	3,130
(対前年増減率) (%)	(▲5.4)	(▲8.3)	(▲3.3)	(▲4.3)	(▲3.4)	(▲10.9)	(▲6.8)	(▲6.1)	(▲7.1)
うち肥育豚2千頭以上層(戸)	1,020	961	990	1,030	1,030	997	958	972	910
戸数シェア (%)	(21.5)	(21.8)	(23.2)	(25.2)	(26.1)	(28.6)	(29.7)	(32.0)	(31.8)
飼養頭数(千頭)	9,537	9,313	9,346	9,189	9,156	9,290	8,949	8,956	8,798
(対前年増減率) (%)	(▲1.5)	(▲2.3)	(0.4)	(▲1.7)	(▲0.4)	(1.5)	(▲3.7)	(0.1)	(▲1.8)
うち子取用雌豚(千頭)	885	845	839	824	853	823	789	792	758
(対前年増減率) (%)	(▲1.6)	(▲4.6)	(▲0.6)	(▲1.9)	(3.6)	(▲3.5)	(▲4.1)	(0.3)	(▲4.2)
うち肥育豚2千頭以上層(千頭)	6,528	6,309	6,479	6,606	6,664	6,880	6,692	6,753	6,634
頭数シェア (%)	(70.7)	(70.0)	(71.9)	(74.5)	(75.6)	(77.8)	(78.3)	(79.1)	(78.8)
一戸当たり平均 飼養頭数(頭)	1809.7	1928.2	2001.3	2055.7	2119.4	2413.0	2492.8	2657.6	2810.9
一戸当たり平均 子取用雌豚頭数(頭)	206.4	214.4	220.9	226.3	246.6	270.8	286.9	299.9	317.3

資料：農林水産省「畜産統計」(各年2月1日現在)

注1：平成27年及び令和2年は世界農林業センサスの調査年であるため比較できるデータがない。

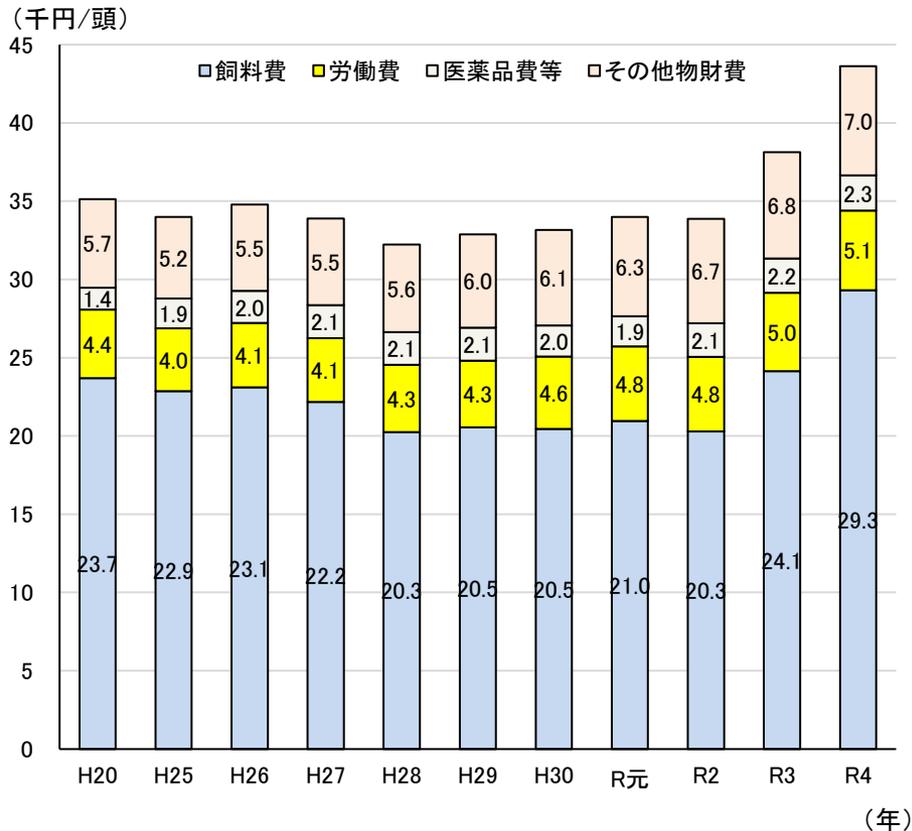
また、平成28年及び令和3年の()内の数値は、それぞれ平成26年及び平成31年との比較である。

2：肥育豚2千頭以上層戸数シェア及び頭数シェアは、学校、試験場等の非営利的な飼養者を除いた数値を用いて算出している。

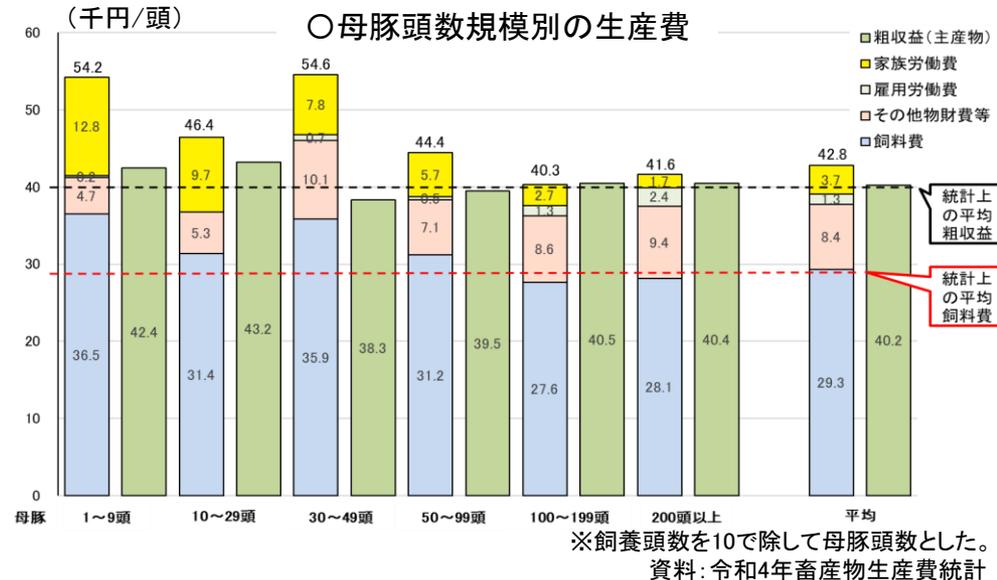
生産コストと収益、労働生産性

- 生産費のうち、飼料費が約7割、労働費が約1割を占める。
- ここ2年の生産コストは配合飼料価格の高騰により増加。令和4年は対前年比14%増。
- 飼料費と労働費は規模が大きくなるに従い、減少傾向。獣医師料及び医薬品費や償却費については規模が大きくなると、増加傾向。

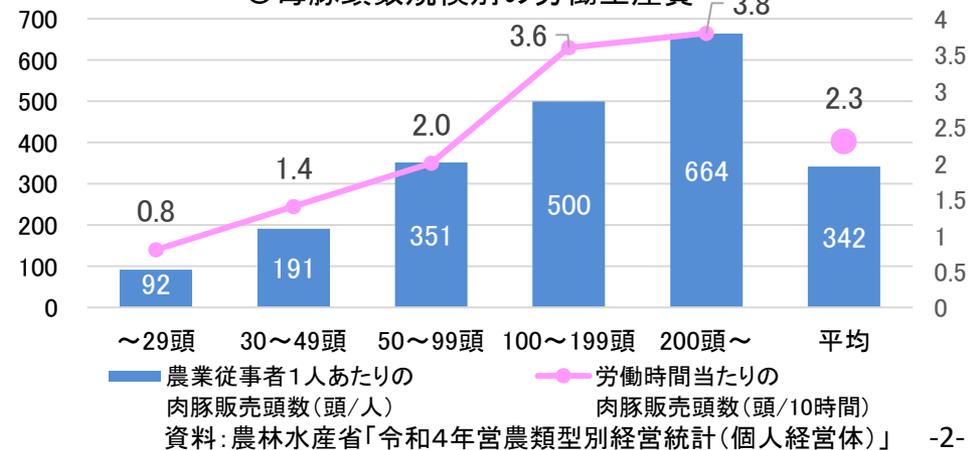
○肥育豚1頭当たり生産費



資料：令和4年畜産物生産費統計



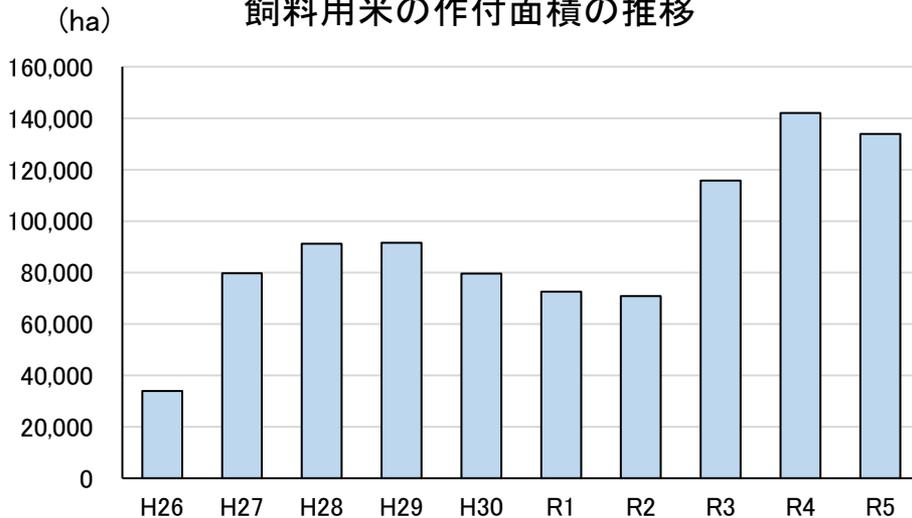
○母豚頭数規模別の労働生産性



国内由来飼料の利活用の状況

- ・ 飼料用米の作付面積は主食用米の需要状況により変動。
- ・ エコフィードの製造数量は一部の原材料の使用の減少等により、近年はやや減少傾向。

飼料用米の作付面積の推移



資料：農林水産省「新規需要米の取組計画認定状況」

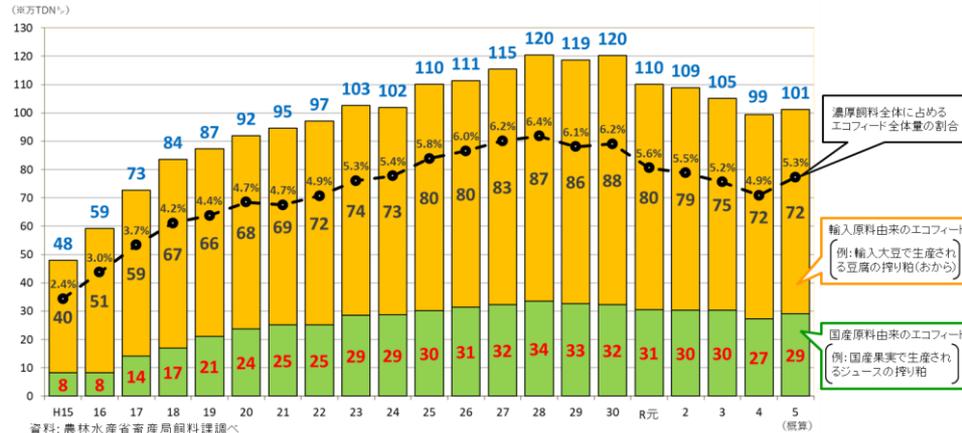
日本の米育ち 平田牧場金華豚・三元豚

- 事業者名：株式会社平田牧場
(山形県酒田市みずほ2丁目)
- 畜産物販売：ネット通販、直営店等
- ブランドの概要

飼料用米を活用した畜産物ブランド化の先駆者として日本最大規模を誇る。大学、研究機関等と連携し、飼料設計や給与技術の改善、肉質向上に取組み、全ての豚が飼料用米を活用(肥育前期15%、後期30%)また、生産・流通・販売まで一貫して行うことで、収益性の高い高付加価値化を図っている。



エコフィードの製造状況



資料：農林水産省畜産局飼料課調べ

※ TDN (Total Digestible Nutrients): 家畜が消化できる養分の総量、カロリーに近い概念。
※ 平成29年度の集計から調査対象品目が減少したため28年度以前と連続しない。

エコフィード利用の取組事例

((株)日本フードエコロジーセンター)



衛生関係

- ・ 豚熱は、平成30年9月に岐阜県で26年ぶりに発生。野生いのししにおいても感染確認。飼養衛生管理の徹底とワクチン接種により、発生数は減少したが、散発的に発生がみられるところ。
- ・ 家畜の伝染性疾病のうち、重篤な症状を示さないものの、出荷頭数の低下や発育不良などの家畜の生産性を阻害する慢性疾病についても全国的な蔓延がみられており、注意が必要。
- ・ アフリカ豚熱は、我が国では未発生であるが、平成30年8月に中国で発生（アジアで初の発生）以降、日本など一部を除くアジア全域に感染拡大。
- ・ 違法に持ち込まれた畜産物から、生きたウイルスが分離された事例もあり、水際対策の強化により侵入防止を図っているが、有効なワクチンがないため、万が一の侵入に備え、飼養衛生管理の徹底による農場への侵入防止が重要。

① 豚熱

原因：豚熱ウイルス

宿主：豚、いのしし ※人には感染しない

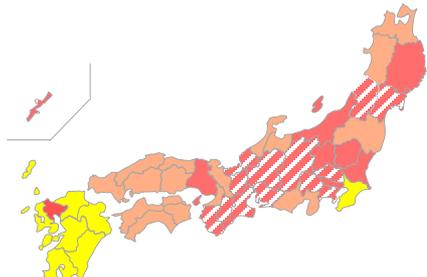
分布：欧州、アジア、アフリカ、南米の一部の国々

※我が国では平成30年9月に26年ぶりに発生。野生いのししでも感染を確認。

症状：急性、亜急性、慢性型等多様な病態を示す。発熱・白血球減少。

※有効なワクチンが存在

- 豚熱の発生状況（令和6年8月14日時点）
飼養豚では22都県93事例の発生
野生いのししでは38都府県で感染を確認。



飼養豚陽性発生県：赤色

(ただし、斜線  は、令和4年度以降発生なし。)

野生いのしし陽性発生県：赤色(沖縄を除く) 橙色

飼養豚へのワクチン接種推奨地域：赤色 橙色 黄色

② 慢性疾病

○PRRS

原因：豚繁殖・呼吸障害症候群ウイルス

宿主：豚、いのしし

分布：1980年代中頃から各国で感染が確認

症状：母豚では流産や異常産などの繁殖障害、哺乳豚では呼吸器病と高い死亡率をもたらす。

成豚は無症状で回復することが多く、不顕性感染が多く見られる。

○豚胸膜肺炎

原因：細菌

(*Actinobacillus pleuropneumoniae*)

宿主：豚、いのしし

分布：世界中

症状：呼吸器系の異常を示す。

急性例では元気消失、食欲廃絶、咳、呼吸困難を示し死亡する。

死亡を免れても、慢性化し、発育遅延などがみられる。

③ アフリカ豚熱

原因：アフリカ豚熱ウイルス

宿主：豚、いのしし（ダニによっても媒介）

※人には感染しない

分布：アフリカ、欧州の一部（ロシア及びその周辺国、東欧）のほか、

平成30年8月に中国で発生（アジアで初の発生）以降、日本など一部を除くアジア全域に感染拡大。

※日本未発生。

症状：甚急性～不顕性まで幅広い病態を示す。

現在の世界流行株では急性経過で死亡。

※豚熱に酷似するがより病原性は強い傾向。

※ワクチン、治療法はない。

※ウイルスは環境耐性があり、食肉・死体等でも長期に感染性保持。

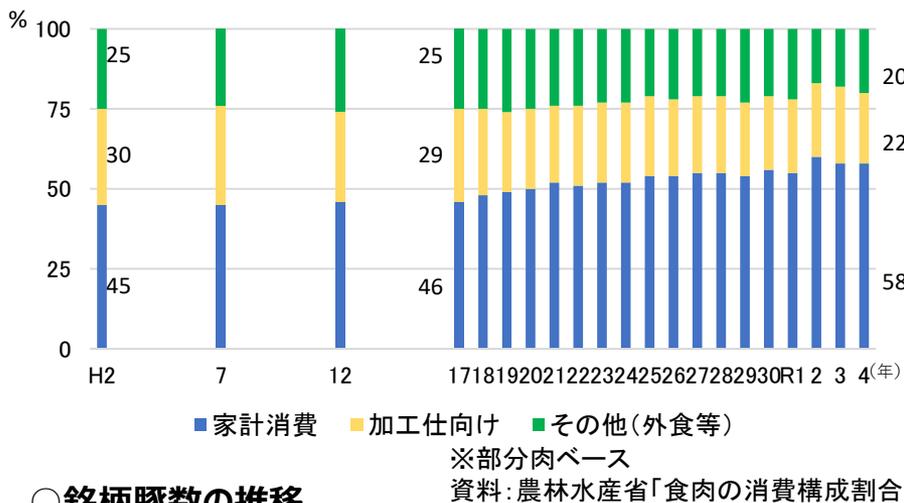


 2005年以降WOAH等に発生・感染確認通報のあった国/地域
(令和6年6月10日時点)

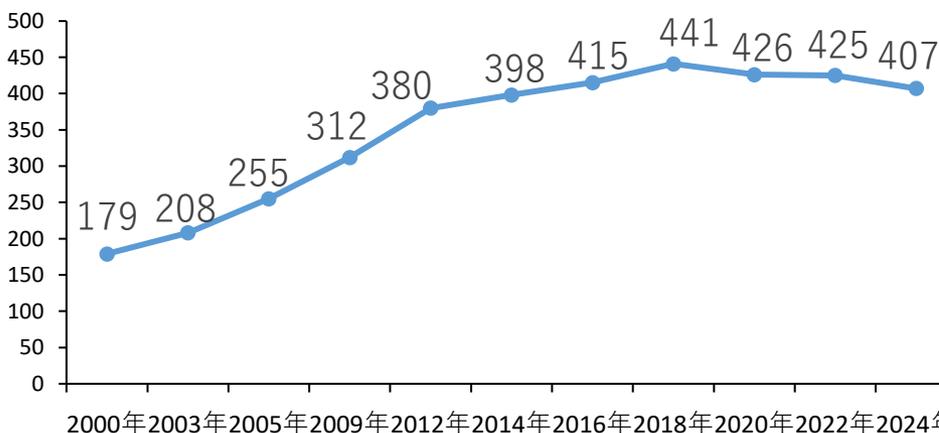
豚肉のブランド化、差別化及び消費の拡大

- 豚肉の消費構成割合は、「加工仕向け」及び「その他(外食等)」から「家計消費」へ緩やかにシフト。
- 特徴のある品種や系統豚等を用い、主に脂肪酸含量やオレイン酸等の肉質に特徴のある豚肉が生産されており、国内の銘柄豚数は年々増加している。
- 生産者団体の若手農家が、日本産豚肉の魅力をPRする消費拡大イベントを開催。

○豚肉の消費構成割合



○銘柄豚数の推移



○豚肉の差別化のための指標

➤ 豚肉の脂肪交雑基準 (Pork Marbling Standard : P.M.S.)

(公社)日本食肉格付協会は、豚枝肉の脂肪交雑判定のためのP.M.S.を作成し、平成30年1月から希望者に対し、判定を実施。

➤ 豚肉のオレイン酸測定

(公社)日本食肉格付協会は、豚枝肉における光学測定装置を用いたオレイン酸の測定方法を確立し、令和5年1月から希望者に対し、測定を実施。

○豚肉の消費拡大に向けた取組



**目指せ！国産豚肉の消費拡大
食料自給率 UP！**

「俺たちの豚肉を食ってくれ！（通称：俺豚！）」

資料：一般社団法人 日本養豚協会(JPPA)

現行の基本方針(平成27年3月策定)について

養豚農業の意義

- ① 国民の食生活の安定に寄与し地域経済に貢献する重要な産業
- ② 国内由来飼料(飼料用米及び食品残さを原材料とする飼料)や堆肥の相互利用等を通じて循環型社会の形成に寄与する産業

政策の方向

1 養豚農家の経営の安定

- 規模拡大等による生産コストの低減のため、畜産クラスターの仕組みも活用し、生産基盤を整備
- 黒豚など特定の品種や、米など国内由来飼料の利用により、豚肉のブランド化、差別化

2 国内由来飼料の利用の増進

- 飼料用米の利用推進のため、需給のマッチングを実施
- エコフィードの利用推進のため、関係法令の特例制度を活用した事例やその運用を地方自治体等の関係者へ周知

3 豚の飼養衛生管理の高度化

- 農場HACCPの普及・定着等により、畜産物の安全を向上
- オールイン・オールアウト方式の導入、飼養衛生管理基準の遵守等により伝染性疾病発生リスクを抑制
- 光触媒等の最適な施設・技術により臭気、汚水対策

4 安全で安心して消費することができる豚肉の生産の促進及び消費の拡大

- 飼料用米の利用等の特色ある飼養方法について、豚肉の品質差を客観的に示す研究を行い、消費者の理解を促す

5 豚肉流通の合理化等

- 産地食肉センターを中心に食肉処理施設の再編整備
- 豚肉の取引規格、豚肉及び加工品の品質表示の普及



養豚農業の健全な発展

